

～ いざカンボジア王国へ！ No.8 2023年5月～

小松海里

“いざカンボジア王国へ！”と言いつつ、今回は帰国の報告でございます。2019年7月1日に渡航し、JICAプロジェクト“プノンペン都庁及び公共事業・運輸省下水道管理能力強化プロジェクト”を無事に終えて2023年4月1日に帰国いたしました。当初2年契約のところ、コロナ禍で想定外の2度の契約期間延伸をしてしまいました。隔月くらいで書こうと思っていたこの原稿、結果的には年2回程度となり、誠に申し訳ございません。（仕事の話はさておき）もっとカンボジアの魅力を発信しておきたかったと強く反省しております。

年5%以上の経済成長を続けるカンボジアでの生活は、日本の高度経済成長期やバブルを経験していない世代からすると、右肩上がりの国や経済の雰囲気を感じ、真っ黒な水路の水と嫌気的な気泡、界面活性剤で泡だらけの湖という、日本では教科書や親世代の話から知る水環境の状況を実際に目にするという非常に良い経験をさせていただきました。

暖かく迎え入れてくれたカンボジアの皆様、日本側関係者やサポートいただいた皆様のおかげで無事に役目を果たすことができたと思っております。この場を借りて御礼申し上げます。

この5月、東南アジア版オリンピックともいわれる東南アジア11か国による総合競技大会（通称SEA Games）の第32回が初めてプノンペンで開催されました。カンボジアの人々にとってはオリンピックよりも注目度が高く、この大会の成功は非常に大きな成果であると喜びと誇りに満ちた連絡を友人知人からたくさんもらいました（SNS上では、開会式は東■2020より良かったという日本人による評価も目にしました……）。これから、国際社会でのカンボジアの活躍の場が増えるのではないかと非常に楽しみに感じています。

この4月から、私はJS東日本設計センター土木設計課というところに戻っておりますので、お近くにお寄りの際は声がけいただければ幸いです（仕事に関しては完全に浦島太郎状態で非常にマズイです）。業務はもちろん、観光やその他もろもろ引き続き両国の橋渡しをできればと思っております。今後ともよろしく願い申し上げます。

今までこの報告に目を通していただき誠にありがとうございました。
（次ページ以降はそのうち取り上げようと思っていた写真の一部です。）



職場、公共事業・運輸省のシンボルヴィシュヌ神像と私（庁舎移転と共に設置後、すぐに撤去されたのでなにかと思ったら、腕の数が6本で間違っていたため8本腕の像が再設置された。とてもカンボジアらしいエピソード）

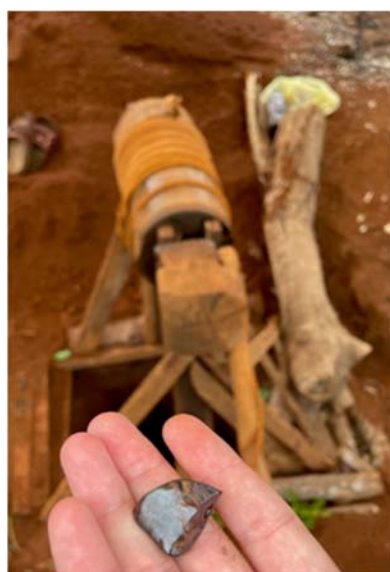


海外初のマンホールカード（クメール語版と日本語版）。カードの座標に示された、アンコールワットがある街シェムリアップのマンホール蓋とともに。シェムリアップの下水処理場で活動する JICA ボランティアの方の広報ツールとしての一面を持ちます。配布場所は、日本人マネジャーと日本語の流暢なガイドさんたちが常駐する旅行会社なので、安心してゲットしに行ってください！ 5月23日現在で現地は75人に配布（カンボジア人21、日本人53、フランス人1）。滋賀県でも配っていただいております。そちらは1000人を超えているらしいです。

（写真はイメージです）

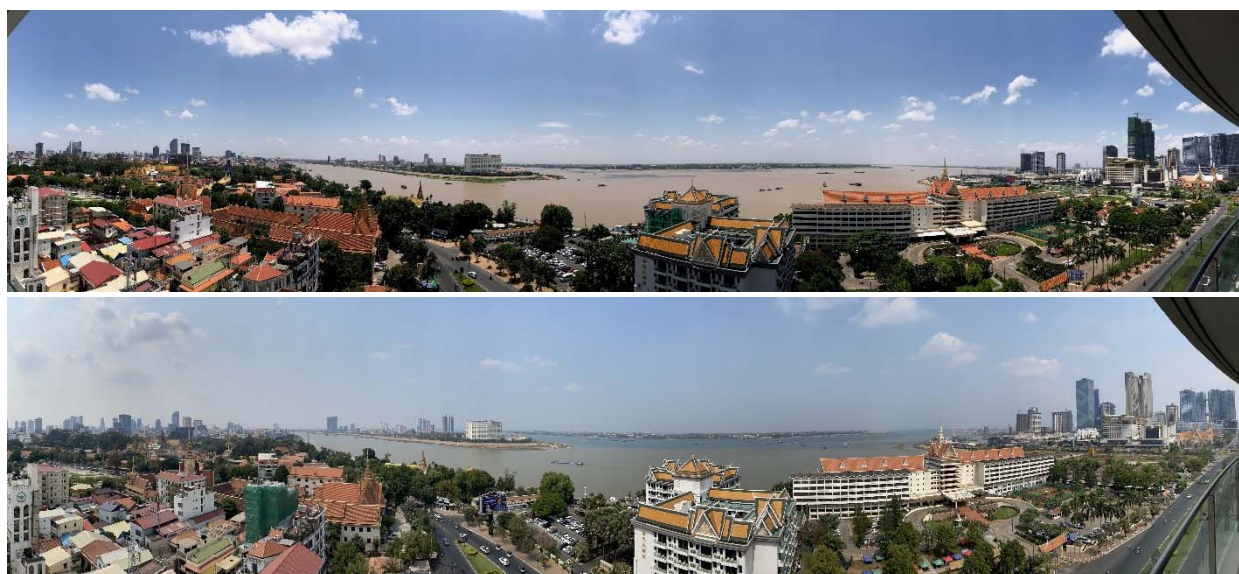
カンボジア南西部には意外とビーチリゾートもあつたりします。開発と中国化が進んでいるので、ノンビリと楽しみたい方はお早めどうぞ。

フェリーは快適ですが、予約していても予定通りに運航されなかったり、リコンフォームをちゃんとしないと乗れなかったりするのでお気を付けください！



宝石も採れます。左のような赤土の中を人力で掘り、出てきた赤褐色の石を加工すると右のラタナキリブルーと言われる宝石になります。これはジルコンですが、コランダム（サファイア、ルビー）も採れます。ローカルマーケットではお手頃価格で手に入ることもありそうです。





プノンペンの市街地を背にメコン川を望む 上：2019年7月、下：2023年3月
4年弱の間に高層ビルがかなり増えました。



今年は日カンボジア友好 70 周年です。帰国直前に行ったアンコールワットの日の出で、両国のシンボルが揃ったような景色が見られました。ぜひ、皆様もカンボジアを訪ねてみてください！